私学校跡石塀

【所　在　地】鹿児島市山下町６－１
【種　　別】県指定史跡
【指定年月日】昭和 43 年３月 29 日

県歴史資料センター黎明館の北隣りにある私学校跡石塀は，鶴丸城付属の廐の周壁として構築された。鶴丸城の構築が慶長６（1601）年からというから，この石塀もその時築かれたと思われる。ただ，元禄９（1696）年の城下大火に罹災したので，一部修築がほどこされた可能性もある。

明治７（1874）年に，西郷隆盛のあとを追って帰郷した青年子弟を教育して一定の方向を与え，将来にそなえるために私学校が創設された。

その後，西南戦争により，明治 10（1877）年９月 17 日私学校は焼失し，同 24 日，新撰旅団によって陥落させられた。この時の弾痕は，この石塀に今なお跡をとどめている。なお，この石塀は，昭和 30（1955）年，国道 10 号線拡張工事のため，若干，後退復元された。

〈参考〉

●私学校のしくみ　私学校は，歩兵の学校で，銃隊学校（本校）とよばれた。あわせて砲隊学校もつくった。やがて，各方限（区域）毎に分校ができ，また地方にも私学校ができた。各私学校は，公学校の校舎を夜使い，伝統的な薩摩の郷中教育が行われた。また，士官を養成するため幼年学校（賞典学校）を，今の照国神社の所につくった。ついで，吉野の寺山に開墾社をつくり，昼は農業をし，夜は学問をした。県令（知事）大山綱良の援助もあり，私学校生徒は三万人にもなった。